

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立鹿島中学校

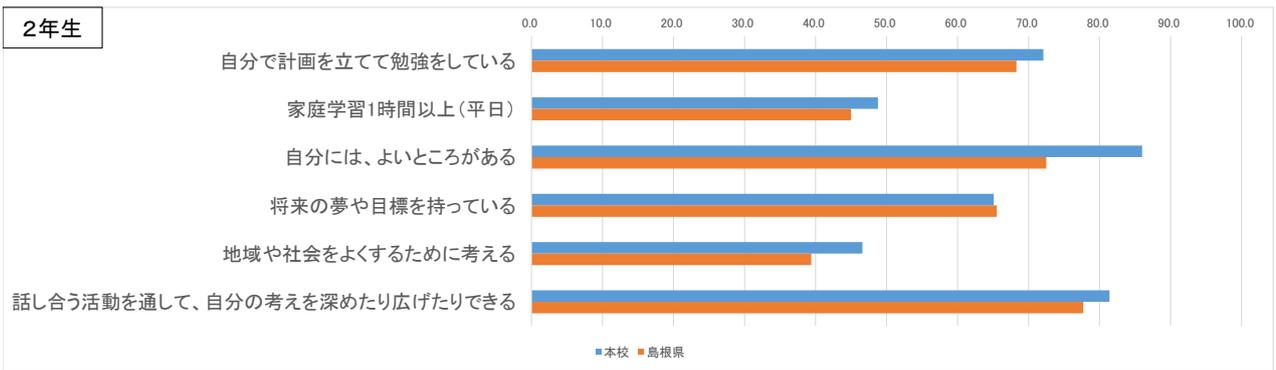
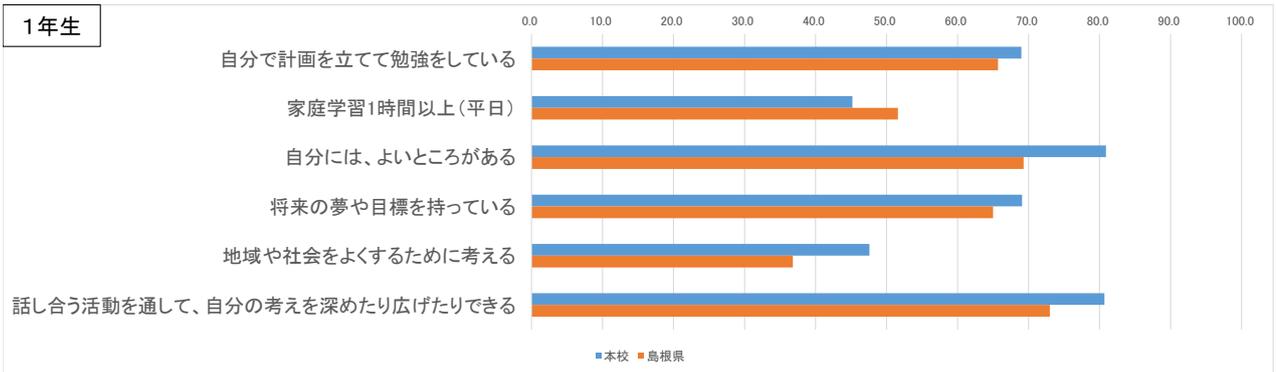
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間の授業の最初に漢字テストを行っていることで、漢字の読み書きの力が付いてきた。 ○文章を読む、また書くときに、根拠の必要性を指導したことで、文章の根拠を意識する生徒が増えた。 ●自分の考えを的確な言葉を使って表現する力を付ける必要がある。 ●語彙力、表現力が少ないために、指定された長さで文章を書くことが困難である生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中ワークシートなどで「書くこと」、そして朝読書の時間で「読書」を継続して行っていることで、文章を読み取る力が少しずつ付いてきた。 ○毎週漢字テストをすることで、生徒自ら学習する習慣が増えたことで、漢字の読み書きの力が付いてきた。 ●長文を書いたり、読み取ることが苦手な生徒が多いため、もっと語彙力や表現、応用する力が必要である。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的に基礎カテストを行い、理解の不十分な生徒には再テストで個別指導をしてきたことで基礎的な内容の定着につながった。 ○図形分野では学習者用デジタル教科書を使用し、自分で立体を動かしながら考えることで理解が進み、例年より正答率が上がった。 ○数りんピックや全国学調の活用問題など良い問題をピックアップし取り組んだことで生徒の学習意欲が高まった。 ●日常的な問題において数学的な表現で説明する力を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図形領域において、平行線と同位角、錯角の関係や三角形の内角、外角の性質について理解し、角の大きさを求める正答率が高かった。 ●関数領域において、一次関数の式からグラフを描くことや、2点の座標から一次関数の式を求めるなどの正答率が低かった。 ●どの領域においても思考力、判断力を問われるような活用的な問題に対して困難が見られる。まずは基礎的な内容の定着を図り、その後活用的な問題を事象に即して解釈し、数学的に説明できる力を付ける必要がある。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の本文理解を丹念に行い、単元テストを行っているので、読む力が付いてきている。 ○絵を適切に表している英文を聞いて、その内容を理解している。 ●書くことが苦手で、英語の語順の理解が難しい傾向にある。単語、連語について、書くことが難しい生徒がいる。より基礎力の定着に向け、書く力を高める工夫が必要である。 ●文構造や文法事項を理解している割合が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で、基本的な内容について問題演習をくり返し行っていることで、基礎については正答率が上がった。 ○語法・語法・語彙については定期的な基礎カテストの実施が理解力の向上につながった。 ●対話を聞き取り理解できる活動を取り入れる必要がある。 ●英作文の機会を増やし、英文を書く力を付ける必要がある。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	<ul style="list-style-type: none"> ○地域への愛着や誇りを感じている生徒が多く、「地域や社会をよくするために考える」と肯定的に回答した生徒の割合も高い。 ○自己肯定感や自己有用感が高く、学校が好きな生徒が多い。 ●県と比べ平日に1時間以上家庭学習をする生徒の割合が低く、家庭学習の習慣化に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分にはよいところがある」の割合が高い。学校行事や学級の取り組みの中で自己有用感が高まってきていることが関係していると思われる。 ○地域行事への参加や手伝いをしている割合が高い。 ●就寝時間が遅い生徒がみられる。 ●学習時間が少ない。家庭学習の習慣づけはできているが、自分で工夫し学力をさらに深めるまでには至っていない。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】 1年生 42 名 2年生 43 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)